

# 支縁



<http://www.kisokobe.com>

神戸国際支縁機構(KISO)季刊誌

【発行人】岩村義雄

【事務局】〒655-0049 神戸市垂水区狩口台5-1-101

Tel(078)782-9697 Fax(078)784-2939

E-mail:kiso@mbe.nifty.com

年4回 2月、5月、8月、11月

購読料 一部320円+送料80円(年ぎめ 1,600円)

## 「支縁」について

神戸国際支縁機構 理事  
淀川キリスト教病院 名譽院長 白方誠彌

新約聖書のヨハネによる福音書十三章三十四節に、「あなたがたに新しい摂を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」とのイエスの教え

があります。これは人類の終局の目標であり、マザーテレサは、その生涯を通して実践された方でした。神戸国際支縁機構の東北へのボランティア活動は、このイエスの教えを着実に実践されていると敬意を表します。この体験を通して、それぞれの方々にとつて、人生を歩む上で特別なお恵みがあると確信すると同時に、神様の祝福を祈りたいと思います。

渡波地域の亡くなつた方が掲載されていました。一面に、渡波地区で亡くなつた五百四十七人の名前、年齢がぎり書かれています。県警発表に基づいて、遺族が公表を希望した名前のみで、正確にはありません。なぜなら行方不明、死者数の正確な調査はすくんでいないからです。

## 傾聴ボランティア

石巻市旧渡波の地域には、在宅被災者が四千人ほどいらっしゃいます。総合病院もありません。ケアマネージャー、介護士、ヘルパーも震災前とちがつておられません。防波堤、高台移転、道路工事など二千二百六十億円の行方に福祉関係はゼロです。仮設住宅（一万五千人 約七千二百九十七戸）に百六十人ほどしか見回りがいません。みな仮設（二万六千人）には年末から二十名の見回りが採用されました。十名になっていました。一方、在宅被災者（一万五千人）には見回り、行政、ボランティアが一度も訪問していない地域があります。機構は昨年六月から、戸別に訪問しています。民生委員たちと協働で地図作りに取り組み、まちづくりに仕えています。ひとりひとりが地図と蛍光ペンを持ちながら、次回に備えて留守宅などを記録していきます。

伊勢町、浜松町、黄金浜町の住人の間では、震災時に体験した試練を第三者に吐露する機会はないようです。「神戸から来ました」と語る若者たちが外部の人だから話がしやすいかもしません。したがって、

家族を失つたご近所の方たちの前ではお互に話せない生き残った時の体験を話されるのです。心の奥にしまつておられたおりを打ち明けていただきます。被災者がたまつていた思いを、阪神・淡路大震災の時点で生まれていなかつた、または幼かつた若者たちには安心して吐き出されるのです。毎月お会いするうちに相手も待つておられ、縁で結ばれています。被災者とボランティアの互いの心が重なり合うのです。

「牡鹿新聞」発行所の平塚淳子さんの体験（二〇一三年二月十九日 神戸夙川学院大学教員山脇敬子氏と共に）



見回り、行政、ボランティアが一度も訪問

していない地域があります。機構は昨年六

月から、戸別に訪問しています。民生委員

たちと協働で地図作りに取り組み、まちづ

くりに仕えています。ひとりひとりが地図

と蛍光ペンを持ちながら、次回に備えて留

守宅などを記録していきます。

伊勢町、浜松町、黄金浜町の住人の間では、震災時に体験した試練を第三者に吐露する機会はないようです。「神戸から来ました」と語る若者たちが外部の人だから話がしやすいかもしません。したがって、

見回り、行政、ボランティアが一度も訪問

していない地域があります。機構は昨年六



## 牡鹿新聞

(昭和25年4月22日第三種郵便物認可) (2)

宮城県石巻市渡波の万石浦幼稚園(北川禮子園長)にて餅つきをしました。農や、在宅被災者三百名以上にお集まりいただきました。

あいにくのお天気にも関わらず、元気いっぱいの園児と園児たちの親御さん、地元の三百名以上にお集まりいただきました。農や、在宅被災者戸別訪問と平行しての作業でした。

二百名以上の分のおもちを用意すると聞いた時は、「もちつき」などしたことがなく、何からしたらいいのかさっぱり想像できませんでした。

宿泊している修空館の小野寺玉枝夫人やボランティアみんなのお母さんの存在の小島美美子さんが手馴れた手つきで私たちに的確に指示してくれたおかげで、不安もなく、準備をすることができました。地元の方は喜んでくれるだろうかと期待しながら、前日の晩から一俵(六十kg) ものもち米を洗いました。当日使われる大量のお湯を沸かし、電気ポットに入れて保温して備えました。翌朝、五時起床で、次から次へと蒸籠でもち米を炊きました。炊きあがつたふつくり

## もちつき大会

木戸 佳奈子

二百名以上の分のおもちを用意すると聞いた時は、「もちつき」などしたことがなく、何からしたらいいのかさっぱり想像できませんでした。

宿泊している修空館の小野寺玉枝夫人やボランティアみんなのお母さんの存在の小島美美子さんが手馴れた手つきで私たちに的確に指示してくれたおかげで、不安もなく、準備をすることができました。地元の方は喜んでくれるだろうかと期待しながら、前日の晩から一俵(六十kg) ものもち米を洗いました。当日使われる大量のお湯を沸かし、電気ポットに入れて保温して備えました。翌朝、五時起床で、次から次へと蒸籠でもち米を炊きました。炊きあがつたふつくり

二百名以上の分のおもちを用意すると聞いた時は、「もちつき」などしたことがなく、何からしたらいいのかさっぱり想像できませんでした。宿泊している修空館の小野寺玉枝夫人やボランティアみんなのお母さんの存在の小島美美子さんが手馴れた手つきで私たちに的確に指示してくれたおかげで、不安もなく、準備をすることができました。園長先生から子どもたちに、五人のボランティアがなぜ戸から来たか、阪神・淡路大震災の時、どうだったか、お話をるように依頼されました。薬剤師の榎原英朗氏は前回、石巻に来てからケニアに行つた体験を園児たちに話しました。ゲームをしたりして子供たちと、餅つきが始まるまで楽しい時間を過ごしました。

準備が整い、一ヶ所は屋内で、二ヶ所は軒下で「ペったんぺったん」と餅つきが始まります。

最初はもちをつくコツも分からなかつたの

ですが、魚谷浩さんが「まずは杵を寝かして、こめづぶを潰すようにならしてから、こやつてつくんだよ」と見本を見せてくれました。合いの手も婦人会の方が見事なタイミングで、餅をつく人の左に座り上手にされていました。その光景に「これがもちつきか」と見とれてし

ました。園児たちは、餅をつく人の左に座り上手にされていました。その光景に「これがもちつきか」と見とれてし

ました。園児たちは、餅をつく人の左に座り上手にされていました。その光景に「これがもちつきか」と見とれてし

ました。園児たちは、餅をつく人の左に座り上手にされていました。その光景に「これがもちつきか」と見とれてし

株式会社 チュチュアンナ  
代表取締役社長

上田 利昭

tutu.anna

MiYOSHi

ミヨシ石鹼株式会社  
〒130-0021  
東京都墨田区緑3-8-12  
TEL 03-3634-1341

竹中工務店

[www.takenaka.co.jp](http://www.takenaka.co.jp)

新生田川共生会

(ホームレス自立支援の会)

TEL 078-392-0327

東日本大震災以降、  
神戸国際支縁機構に協力





## 東日本大震災と阪神・淡路大震災の被害の比較

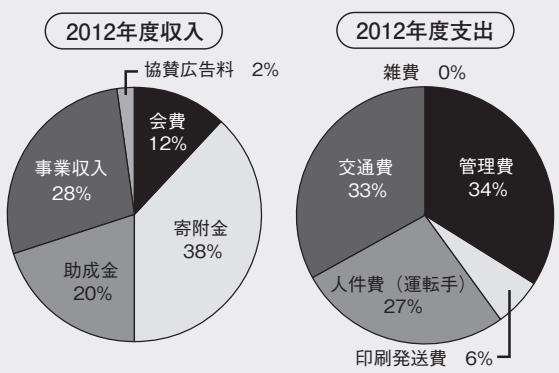
	東日本大震災	阪神・淡路大震災
死亡*	15,848人	6,434人
行方不明者*	3,305人	3人
漁船	>22,000隻	17隻
漁港***	300以上	17
農地	23,600ha	213.6ha
被害額	16~25兆円	9.9兆円

\*2012年2月10日現在

\*\*\*石巻市内全漁港44港が全て被災、防波堤破損流出多数、定置網・養殖施設もほぼ全滅

出典：「『死』を考える」講座から抜粋 講師 亀山 純 石巻市長  
(2012年4月23日 神戸新聞会館)

## 2012年度神戸国際支縁機構収支報告



収入		支出	
会費	976,000	管理費	2,847,462
寄附金	3,220,140	印刷発送費	535,758
助成金	1,700,000	人件費（運転手）	2,280,000
事業収入	2,324,500	交通費	2,797,614
協賛広告料	180,000	雑費	6,883
(年度収入計)	8,400,640	(年度支出計)	8,467,717
(前期繰越金)	245,210	(次期繰越金)	178,133
合 計	8,645,850	合 計	8,645,850



「ヒューマニティ・ファースト」  
日本アハマディア・ムスリム協会

ヒューマニティ・ファーストは、震災翌日の3月12日、千人分の食料を積み込み名古屋から被災地へと出発。石巻市内の避難所でパキスタンカレーを提供。当機構と連携する団体です。

特定非営利活動法人

み も ざ

TEL 078-262-0460

医療・保健介護・  
福祉・教育に関する事業  
共生社会の実現

不動産 売買・賃貸・管理・店舗は

本 田 商 会

〒662-0051 西宮市羽衣町5-23

電 話：0798-38-7560

F A X：0798-38-7561

お気軽にご相談ください。

## 稻刈り(その二)

山本 智也

二日目は、三・五反全部の稲刈りを終えることと、天日干しのためのやぐらづくりが課題です。阿部勝徳さんが、「これ全部刈り取らないと、地元で神戸国際支縁機構は笑いものになる」と活を入れました。するとボランティアの皆さんにエンジンがかかりました。手で刈る人一人に対し、束ねる人は三～四人の割合です。交替で休憩をとりながら、作業に全力投球し、後半の猛烈な追い込みでなんとか田んぼアートの面は刈れました。

市販のお米のほとんどが「機械乾燥」です。刈り取った稲は糲ごと機械に入れ、短時間で乾燥させます。一方、昔の天日干しは「ほによ」というイースター島・モアイ像のような天日干しがよく見られます。天日で干した稲は、さんさんと輝く太陽の力と海からのさわやかな



稲架掛け

乾燥は太陽と風の力でゆっくりと乾燥させます。私たちも天日干しに挑戦します。日本中、「天日干し」の風景は少なくなりました。「稻架掛け」は三本の木で三脚を二組作って、その上に長い竹竿をのせます。この竹竿の上に稲をかけていきます。宮城県、岩手県では「ほによ」というイースター島・モアイ像のような天日干しがよく見られます。



ほによ

暖差によりアミノ酸と糖の含量が高くなります。また稲を逆さまに吊るすこと、稲穂の油分や栄養分、甘みが最下部の米粒へ降りてくると言われています。ですからボランティアの愛情がつまつたおいしいお米に仕上がります。作業が夕方になり、「稻架掛け」や「ほによ」が夕日に染まってとてもきれいでした。日本の子どもたちにつなげたい風景の一つだと思います。

（次号に続く）



夢に近づく  
夢を産み出す…

KINSAN 近畿産業信用組合  
総合コールセンター  
**0120-111-019**

**ヤマザキ**  
世界のパン  
**ヤマザキ**

